

救急医療「見える化」システムの導入について①

■本運用開始日

2月19日（月）9時から

■概要

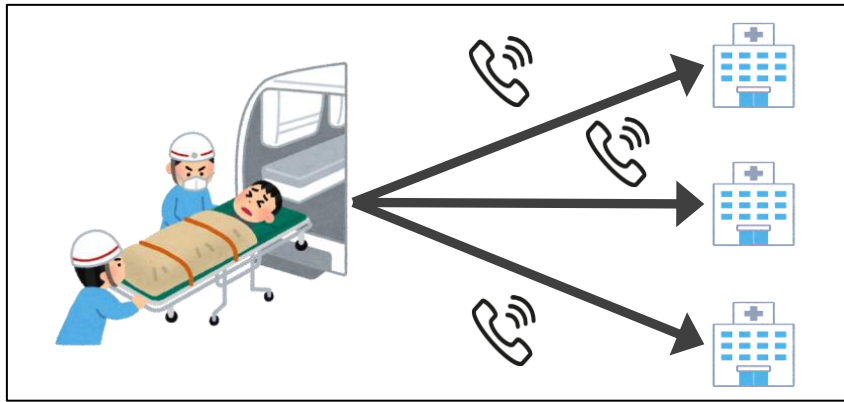
「救急隊アプリ」と「札幌市救急搬送支援・情報収集・統計分析システム」を連動させ、患者や受け入れ可否などの情報について、救急隊と医療機関で即時共有を可能とするもの。市内全35救急隊と51の医療機関が参画予定。

救急医療「見える化」システムの導入について②

【導入の効果①】

従来の救急搬送

- 救急隊が当番の医療機関等に1件1件電話連絡し、救急患者の状態などを説明

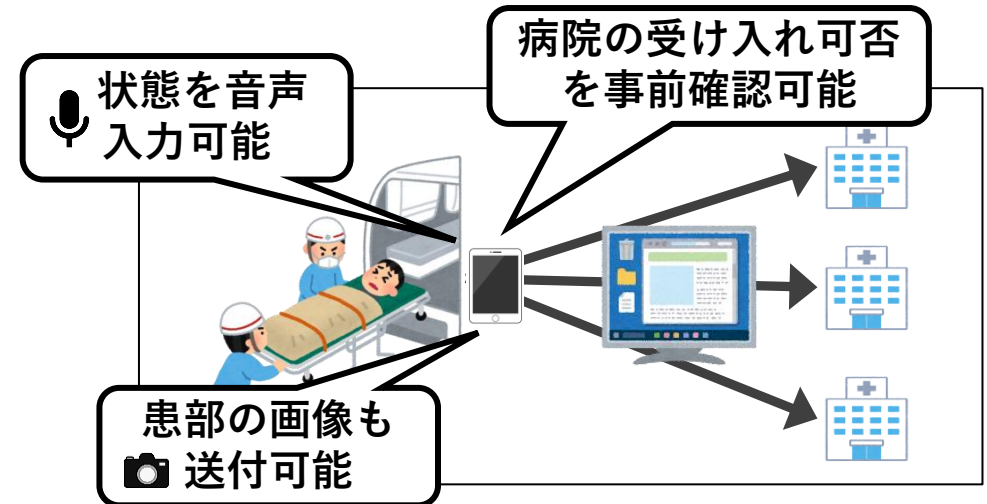


- 医療機関の受け入れ可否状況を事前に把握不可

搬送先の決定に時間を要す場合あり

導入後の救急搬送

- 救急患者の状態をデータで送信
→ 一目で患者の状態を把握



- 受け入れ可否状況が把握可能
→ 医療機関選定時間を短縮

搬送先を迅速に決定できる

救急医療「見える化」システムの導入について③

【導入の効果②】

医療機関に搬送された救急患者の予後の経過や、各医療機関の救急患者の受け入れ状況などのデータをシステムに集積



救急医などの専門家による分析



救急医療体制の検証と不断の見直し



より安心・安全な救急医療の提供

●救急医療「見える化」システムの導入について

近年、札幌市では、年間の救急搬送数が増加傾向にあり、さらには、高齢者の人口増加に伴い、救急搬送患者に占める高齢者の割合が年々増加しております。

こうした状況を受け、このたび、市民を適切な救急医療につなげるため、患者情報や当番医療機関の受入可否状況などを可視化する「救急医療『見える化』システム」を 2 月 19 日から導入いたします。本システムの導入により、搬送先を迅速に決定でき、より安心・安全な救急医療の提供へとつながります。

本システムの導入をはじめ、引き続き、より良い救急医療体制の構築に努めてまいります。

1 システム名

救急医療「見える化」システム

2 導入日

2024 年 2 月 19 日（月）9：00～

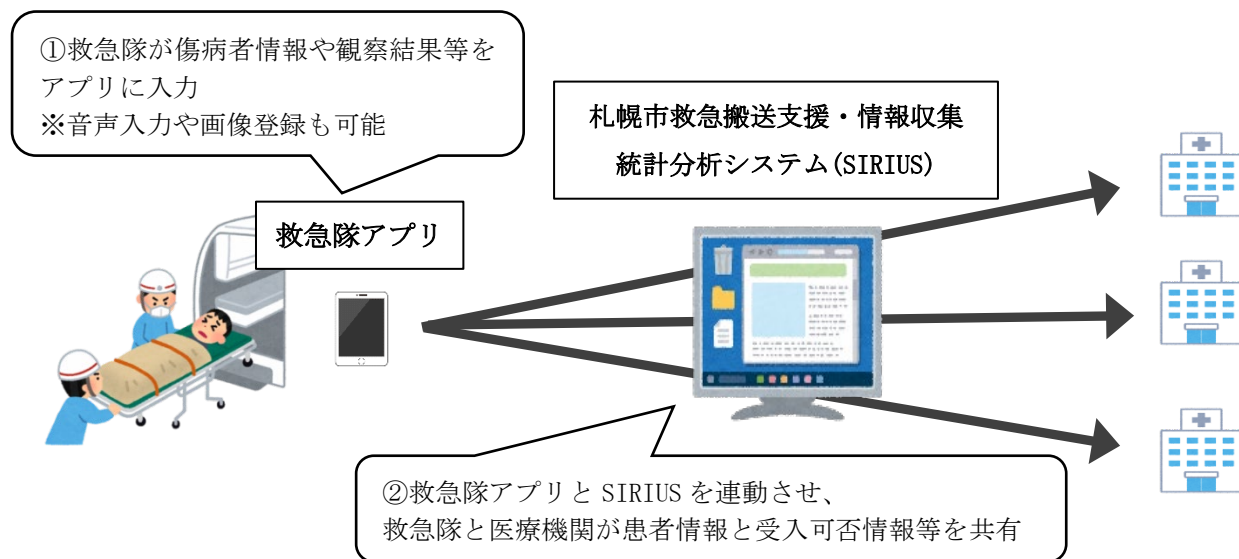
3 導入の経緯

高齢化の進展等による救急出動件数の増加、救急隊の現場滞在時間が延伸していることを受け、札幌市の救急業務の在り方について医学的見地から検討を行う「札幌市救急業務検討委員会」から、2022 年 5 月に、救急サービスの質の維持向上を図るため、新たな ICT 技術の導入について提言があった。

また、全体の救急搬送患者の増加と、救急搬送患者に占める高齢者の割合が年々増加していることを受け、市民を適切な救急医療につなげるため、札幌市医師会や救急医などからなる「札幌市救急医療体制検討委員会」を 2022 年 6 月に立ち上げ、検討を行ってきた。同委員会における提言の中で、患者情報や当番医療機関の受入可否状況などが可視化出来るシステムの導入があった。

これら二つの委員会からの提言を受け、札幌市医師会、市内医療機関、保健福祉局及び消防局が連携して導入に向けて準備を進め、このたび運用を開始するに至ったもの。

4 システムの概要



5 運用体制

市内全 35 救急隊がモバイル端末を使用して本システムを運用。市内の救急医療に関わる医療機関（二次救急医療機関、三次救急医療機関、救急告示医療機関など）のうち 51 医療機関が参画予定。

6 導入による効果

- (1) 医療機関側は一目で救急患者の状態を把握することが可能
- (2) 救急隊の医療機関選定時間短縮
- (3) 医療機関に搬送された救急患者の経過や、各医療機関の応需状況などのデータが集積されることにより、救急医などの専門家による分析および救急医療体制の検証と不断の見直しが可能

【問い合わせ先】

(医療体制に関することについて)

保健福祉局保健所医療政策課 高田・清水

電話：622-5162、ファクス：622-5168

(救急隊の活動に関することについて)

消防局警防部救急課 和合・岸山

電話：215-2070、ファクス：271-0610